



農林 畜産業

JETRO



ケニア

BOP実態調査レポート

ケニアは、紅茶、コーヒー、園芸作物等で世界に知られる農業国であるが、国内ほとんどの地域の農業・畜産は大部分が小規模農家によるものである。世界銀行の報告によると、2011年の名目GDPは、340.6億ドルで、一人当たりの名目GDPは833ドルであった。このうち農業は約24%を占めている。世界農業者機構(WFO)の報告によると、耕作に適しているのはケニアの総面積の48%のみ(半年、一年、多年生作物の栽培地、放牧地、さらに家畜を飼育できる半乾燥地・乾燥地を含む)である。ケニア中央部から北南部にかけての高地や地溝帯の大部分が、一大栽培地域となっている。



主な作物と家畜

一般的な作物には、トウモロコシ、豆、小麦、米の他に、バナナ、サツマイモ、ジャガイモがある。他に、サトウキビ、綿、サイザル麻、果物の栽培も行われている。家畜は、ほとんどが乳牛や採卵用・食用の家禽である。コブウシ等の牛、ヒツジ、ヤギなどは在来品種が飼育されている。ラクダやロバも運搬用に飼われている。



これは食肉用になるラクダ。
自ら国道沿いを歩き、ナイロビに向かう。

JETRO



農業

■耕作面積

農地は各世帯で所有しており、統計によると世帯当たりの土地面積は1~2.5ヘクタールとなっている。しかし高地など人口が密集している農業地帯では、世帯当たりの平均土地面積は1ヘクタール未満である。飼育が行われている半乾燥地・乾燥地では、個人の所有地はなく、土地は地域社会所有であり、その地域の者なら皆、その土地のどこにでも放牧することができる。

■食糧自給率

天候が良好な年には、小麦、砂糖、米、食用油を除いたほとんどの食料需要は国内の農業生産で満たしているが、毎日の平均カロリー摂取量は推奨値である2,100 kcalを満たしていない。これは、生産レベルが国内で必要とされるレベルに達していないことを意味している。ケニアでは、農村世帯で消費される食料の30%が購入したもので、70%が自給である。一方、都市部では消費される食料の98%が購入したもので、2%が自給となっている。現在、穀物消費の約30%が輸入によるものである。

■灌漑計画

大部分の農家は、耕作を降雨や年間降雨パターンに頼っている。十分な降雨のない地域が多いため、耕作に影響が出ないように、灌漑が重要な役割を果たしている。個々の農家や協同組合は、政府その他の出資者の援助を受け、各地で灌漑を行い、全体で約1,100 km²に達している。現在行われている灌漑事業は次のとおりである。

事業	地域	水源	規模	栽培作物
ペルケラ	リフトバレー	ペルケラ川	3,000 ha	タマネギ、乾燥チリ、スイカ、パパイヤ
ムウエア・テベレ (Mwea Tebere)	ケニア中央部	ニヤミンディ川、 ティバ川	13,000 ha (6,400 ha開発済み)	米
ブラ(Bura)	沿岸部	タナ川	2,500 ha	綿、トウモロコシ種子、スイカ、トマト、タマネギ
タナノホラ	沿岸北部	タナ川	4,800 ha (900 ha開発済み)	綿、落花生、トウモロコシ、ササゲ
西カノ	ケニア西部	ビクトリア湖流域	2,200 ha	米

※多くの灌漑事業は河川の流域で行われている。川、沼、淡水湖などの永久水域が灌漑に使われる主水源である。農家の小規模灌漑は家庭用給水設備を使用して行われる。





■農業機械

	平均費用	用途
トラクター	350万Ksh	掘る、耕す、輸送
鋤	0.5万Ksh	家畜に引かせ掘る
脱穀機	280万Ksh	小麦などの作物の収穫
灌漑用ポンプ	2.5万Ksh	農場への水の汲み上げ
車両	150万Ksh	輸送
孵化場	2万Ksh	卵の孵化
干草圧縮機	1.5万Ksh	干草俵を作る

生産活動のために農家が使用する資本財の種類は多様である。資本財は通常個人所有であるが、ケニアの農業の大部分を占めるほとんどの協同組合は会員が使用するための資機材を所有している。トラクターや収穫機などの種類と平均価格は左図のとおりである。



■農家の支出

種子や肥料、成長促進材、農薬などは、人件費と共に農家の支出の大部分を占める。政府は民間と連携し、各種機関を通して研究開発を支援することで、農家が高品質の種子を手に入れられるよう尽力している。ケニア農業研究所(KARI)は特に、国内各地域で栽培している各種作物の高収穫で病気に強い種子の開発で高い評価を受けている。代表的なものは穀物や園芸作物の種子である。その他、バナナ吸枝とサトウキビ株出し技術も開発された。



	平均費用	入手先
トウモロコシ種子	120 Ksh/kg	全認定販売業者
野菜・果物の種子	1,800 Ksh/kg	農業備品販売業者
肥料類	30 Ksh/kg	協同組合、生産者団体 政府機関、貿易業者
農薬	1,200 Ksh/L	協同組合、生産者団体 政府機関、貿易業者

※ケニアシリング(Ksh)換算レート 1Ksh=約0.9円 (2013年2月末時点)



■生産物の販売

農家のほとんどが小規模であり生産は主に自給のためであるが、余力がある場合は販売用に生産される。農家は独自または組織や協同組合を通して販売している。政府は、特に従来市場が混み合う収穫期に、農家が生産物を市場に出せるよう計らっている。購入者と直接契約する契約栽培を行っている農家もある。これはサトウキビ、コーヒー、小麦、大麦、モロコシなどである。トウモロコシ、米、豆などはケニア穀物生産公社(NCPB)や、地元の製粉業者、輸出市場に頼っている。花を中心とする園芸作物は、ヨーロッパに大きな市場を持っている。畜産品は国内に既存市場があるが、ヨーロッパやアジアに輸出されるものもある。主な生産物の販売ルートは次のとおりである。

	販売ルート	平均価格
園芸作物(花)	販売委員会	
トウモロコシ	ケニア穀物生産公社	3,000 Ksh/90 kg入袋
米	ケニア穀物生産公社	11,000 Ksh/100 kg入袋
肉	ケニア食肉委員会	200,000 Ksh/t
卵	個人、協同組合	200 Ksh/トレー(卵30個)
豆	ケニア穀物生産公社	5,600 Ksh/100 kg入袋
ケール	個人、協同組合	20,000 Ksh/t
サトウキビ	砂糖加工業者	3,000 Ksh/ t
牛乳	協同組合	40 Ksh/L
コーヒー	協同組合、ケニアコーヒー委員会	国際市場による
紅茶	協同組合、ケニア紅茶委員会	

投資機会

投資機会の一例は以下のとおり。

- 研究開発:** 地形、道具、生産性の高い農業に関する研究がさらに必要である。既存の機関は農業における要求を満たしていない。
- 農業機械等の資本財提供:** 農家は簡単には買えない資本財を必要としている。投資家は手頃な、または農家の手の届く価格・支払い方法で農機等の資本財を提供することができる。
- コンサルタント:** 日本は、限られた農地しかないにも関わらず、その技術と農業政策で知られている。この知識や技術は、ケニアの手助けとなる。
- 農産物販売:** かなりの畜産品を輸出にすることができるが、輸出市場を開拓していない。アフリカ内外の国際市場には多くの機会があり、それを活かすことで投資家は利益を得られる。
- 官民パートナーシップ:** 技術支援や政策決定の他、インフラ建設に対する財政支援や施工を行うことができる。
- 生産への投資:** 慢性的に資金不足である農業に大きな投資をすることで、投資家は利益を得ることができる。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。